

博士論文要約 (Summary)

平成 22 年 4 月入学

連合農学研究科 生物環境科学専攻

氏 名 五十嵐 幸枝

タイトル	食文化の現代的価値と地域資源としての可能性 ー消費者の購買行動と食文化に対する意識の分析からー
<p>本論では、人口減少や東京一極集中による地域間の経済格差といった地域課題が深刻化する一方で、地域内における小さな成長の兆しがある点に着目する。これまでの産直施設の増加現象、地場産農作物を活用した農家レストランへの関心の高さなど、地域内で顕在化している現象から食への関心の高さが推察され、その小さな成長を支える要因として食文化を捉えていく。分析視点として地域資源に内包される食文化、食文化に内包される伝統食、伝統食に内包される精進料理と捉え、第2章では精進料理の現代的価値を解明し、食文化の価値軸の一つとして「精進料理」を位置付けた。第3章では「伝統食」及び「産直施設」、第4章では「地域資源」の観点から、生産と調理・加工と販売が直結している産直施設、生産と調理・加工がゆるやかに連なる飲食店として農家レストラン及びイタリア食堂を位置づけ、食文化の価値を検証していく。</p> <p>第2章では、平光光子ら(2009)により現代の食の姿と課題として示された「日本型食生活」の変遷の中で検証されていない精進料理の食文化として現代的価値を明らかにしていく。また、南里明子ら(2012)が見いだした食パターンと食品バランスガイドによる朝昼夕食事例を用いて精進料理との比較分析を行い、未だ明らかにされていない食文化としての精進料理の現代的価値を検証した。その結果、精進料理の使用食材や使用食材の種類、頻度は「日本型食生活」や「健康日本食パターン」との近似性が高いことが検証された。一般世帯での食事においては、肉・魚類を食べないというという精進料理特有の要素が大きなウェイトを占める必然性はなく、適度な肉・魚類を加味することで、野菜を中心とした食事の豊かさが拡大するものと考察された。</p> <p>第3章では、アンケート調査による消費者行動の分析を行い、産直施設の成長要因の一つとして伝統食に対する志向性の影響や、伝統食を「作る」「食べる」行動と産直施設での購買金額の多さとの関係性を明らかにした。地域内循環型経済モデルとして産直施設を捉えれば、「小さな拠点」として集落の中心となることも容易に想定できる。小さな拠点を支える小さなフードチェーンの存在は、持続可能な地域需要の循環という点において重要である。家庭や地域といった単位で伝統食を食べ続けるシステムが機能することにより産直施設への需要が高まりを見せると仮定すれば、食育等の活動は大きな意味を持ち、新たな首都圏からの移住者との関係づくりのツールとして活用することも可能である。特に重要な点は、地域内で作り続けられてきた食材の多様な活用方法である。伝統食を作る場合は、農業生産者を含む一般家庭であり、食に対して実に多様な試みが繰り返され、各家庭で漬物や味噌などの自家製加工食品を作り、家族や地域で共に食べる場を作ってきた。精進料理や伝統食を「食べる」「作る」といった一連のプロセスから醸成される食文化の作用は、産直施設の利用行動へ影響を与えることも明らかとなったが、人口減少や東京一極</p>	

集中といった地域課題の解決に向けてどのような効果を与えるか、今後のさらなる研究が必要であろう。

第4章では、疲弊している地方都市での地域再生に必要な潜在力を「食文化」の観点から農家レストラン、イタリア食堂、(産直施設:参考値)の差異分析を通じて、食分野への知識や感性が食を楽しむ、食を消費するという消費行動にどのような影響を与えるか、アンケート調査によりその潜在力の一端を検証した。分析は農家レストラン、イタリア食堂を対象に全体像の把握のために記述統計を行い、項目が影響を与える要因を説明するために因子分析を行い、これらの因子による関係性を見るために相関分析を行った。すべての項目に対して主因子法による因子分析を行い、因子を抽出した。内部整合性を検討するために、抽出因子の信頼性分析を行った。来店期待の差の検討や店舗間の差の検討では、農家レストラン、イタリア食堂に違いがあるかを検証した。以上のように、伝統食や精進料理という要因から目に見えない価値として存在する食文化を捉えて潜在力としてその本質的な価値の可能性の一端を明らかにした。

地域資源を生かした地域再生を行うには、地域毎に内包している多様で複雑な要素を分析し、その実態に接近する必要がある。本論では、産直施設、農家レストラン、イタリア食堂への来店行動を起こした消費者を対象とし、食文化の観点から歴史の中で培われ続けた精進料理を価値軸とし、その消費者意識の差や変化に着目して分析をした結果、家族や仲間と「ともに食べる」行動を生活の基盤としたコミュニティにおける質の高い生活価値の醸成、地域特性を生かした一体的な地域再生という未来への小さな潮流を見出すことができた。今後も更に研究を進め、食文化のもつ潜在的な価値の姿を明らかにし、地域経済発展に寄与することを目指すものである。